国際ロータリー第2840地区<群馬>2013-2014年度

ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
to Rotary club presidents and secretaries

群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第25-190330号

2014
4

本田ガバナー事務所
〒371-0855　群馬県前橋市問屋町2-2 前橋問屋センター会館1F
TEL：027-212-2840　FAX：027-212-2841
E-mail：honda@rid2840.jp

4月号
Vol.10
2014年4月1日発行

本年度の新会員
Our New Hope
(2013年7月～12月入会者)

前橋北
塚越　正浩

前橋南
織田　孝志

前橋南
北爪　浩之

前橋南
山口　泰正

桐生赤城
桑原　隆能

群馬境
前田　昌敬

高崎
川嶋　正靖

高崎
崎山　譲治

高崎
西原　哲男

高崎
松山　和博

高崎
三村　治

高崎北
大西　勉

高崎北
橋谷　晋治

高崎東
大澤　照義

渋川
後藤　伸一朗

渋川
斎藤　克博

渋川
原　直道

渋川
渡辺　紀幸

藤岡北
桒原　恒一

藤岡北
村松　雅章

藤岡南
針谷　章

「ガバナー月信」4月号目次

表紙…… 01

目次…… 02

ガバナーメッセージ …… 03

新会員セミナー報告 …… 04

「地区チーム研修セミナー」開催報告…… 05

竹内年度行事開催報告
「会長エレクト・次年度幹事研修セミナー」…… 06

IM（Intercity Meeting）報告［第 6 分区］…… 11

IM（Intercity Meeting）報告［第 4 分区 A・B］ … 13

周年記念式典報告（前橋中央RC 20 周年）…… 15

周年記念式典報告（富岡中央RC 20 周年）…… 16

パストガバナーエッセイ（松倉パストガバナー） …… 18

本田ガバナー・コラム「ロータリーの誤解・正解」… 19

地区主要行事一覧および周年行事予定クラブ
竹内年度行事予定表…… 22

新会員紹介…… 23

文庫通信…… 24

出席報告…… 25

ガバナー月信についてのお願い／編集後記 …… 26

ガバナーメッセージ

次年度の準備着々。
そして、4月は「雑誌月間」です。

2013-14 年度
ガバナー　本田　博己

会長・幹事の皆さんこんにちは !!

先月は、第4分区 A・B 合同、そして、第2分区 A、第 2 分区 B の3つの IM（インターシティ・ミーティング）が開催されました。10 年ぶりということで、IM を知らない会員も多くなっていることにあらためて驚かされます。地区予算のない中、ガバナー補佐の皆様に企画・運営を一任してご苦労をおかけしていますが、それぞれ創意工夫が凝らされたプログラムで、毎回充実した内容に感銘を受けています。私たちの課題と希望を近隣クラブの仲間と親しく語りあう機会として、参加された皆様が大いに楽しんでいただいていることが何より嬉しいことです。

先月の、PETS（今号にレポート掲載）に続いて、今月 19 日には地区研修・協議会（従来の地区協議会が名称変更された）が開催され、竹内正幸ガバナー年度（2014 － 2015 年）の準備が一段と進みます。会長・幹事の皆様には、次年度クラブ指導者への支援や引き継ぎにご配慮いただくとともに、残り 3 か月になった私たちの年度の課題・目標、特に純増目標について最後のご尽力をお願い申し上げます。

さて、4月は「雑誌月間」（Magazine Month）で、「ロータリーの雑誌の購読と、活用促進に役立つプログラムを実施する月間」となっています。「ロータリーの雑誌に対する会員の認識を深め、それによってロータリーの情報の普及を図ることが目的」とされています。

ロータリーの雑誌といえば、日本では『ロータリーの友』ですが、これは世界で31ある地域雑誌のひとつです。RI の機関雑誌（公式雑誌）は、“ THE ROTARIAN”といい、毎月 50 万部発行されています。全世界共通の指定記事以外は、それぞれの地域雑誌独自の編集内容となっています。地区と『友』誌をつなぐのが、「ロータリーの友地区代表委員」（今年度は町田庄吉元地区幹事）です。詳しくは、『ロータリーの友』4 月号の雑誌月間特集記事をご覧ください。

毎月第 1 例会で『ロータリーの友』の読みどころを雑誌委員会が紹介する時間をとっているクラブも多くなったのは喜ばしいことです。毎号、2840 地区や地区内クラブの名を目にする機会（投稿）も増えてきました。

『ロータリーの友』を「私たちの雑誌」として、これからも育て、ご愛読いただければ幸いです。

新会員セミナー報告

ロータリークラブの本質が理解できた！

副幹事　温井　尚久

平成 26 年 2 月 23 日（日）、13:30 ～ 16:00 に前橋問屋センター会館にて新会員セミナーが実施されました。

松島地区研修委員の司会で開会となり、本田ガバナーより「大雪が降り、大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ロータリークラブは 1905 年 2 月 23 日に誕生しました。本日は創立記念日です。上毛新聞 25 面に広告を掲載しました。本セミナーには入会3年目までの新会員とクラブ研修リーダーに参加いただいています。ロータリーの魅力を伝える大切な機会です。最後までよろしくお願いします。」とご挨拶いただきました。

続いて、曽我地区研修委員長から「本日のテキストである「ロータリーの基本」の作者は本田ガバナーです。この後、本人から講話があります。109 年前の本日にロータリークラブはスタートしました。ロータリアンは入会3年未満に辞める人が多い。その原因の一つにロータリーに対する理解不足があります。本日のセミナーを通じて理解を深めてください。また、フリーディスカッションでは積極的に質問をお願いします。」と趣旨説明をしていただきました。

その後、本田ガバナーより「ロータリーの基本」と題して、①ロータリーの歴史、②ロータリーの戦略計画、③5つの中核となる価値観、④「奉仕の理念」と経営、⑤ロータリーの魅力と可能性など80分間に渡り、大変分かりやすく、熱の入った講話をいただきました。

コーヒーブレイク後、佐藤地区研修委員をディスカッションリーダーとして、忌憚のない意見交換が行われました。数多くの参加者から「ロータリーの本質が理解できてよかった。」という意見があり、実りの多いセミナーとなりました。

最後に曽我地区研修委員長から講評をいただき、閉会となりました。

「地区チーム研修セミナー」開催報告

2014-15 年度
地区副幹事　市川　博士

場　所：太田　ティアラグリーンパレス
日　時：2014 年 3 月 2 日（日）

去る、3 月 2 日（日）、竹内ガバナー年度のスタートを切る、「地区チーム研修セミナー」が、観測史上初の大雪での延期を経て、満を持して開催されました。当日は、当初日程の変更により、参加者の減少が懸念されましたが、心配をよそに、ほぼ全員のご参加をいただきました。

研修は、緊張感の中、曽我隆一地区研修委員会委員長の、身の引き締まる目的説明でスタートいたしました。続いて、竹内正幸ガバナーエレクトにより、映像を使用しながら、サンディエゴにおける国際協議会の報告から、2014 ～ 2015 年度ゲーリー C.K. ホァンRI会長の年次テーマ、「～ロータリーに輝きを～」の説明、そして、それを受けてのガバナーメッセージ、地区スローガン、地区活動目標と、流れるように、しかもわかりやすく進められました。

その後、春山和夫地区幹事より、「地区組織運営について」、長島章博地区会計長より、「地区予算案について」の説明がされた後、地区活動目標の 1 番目に挙げられる、「会員増強と組織強化について」という演題で、安藤震太郎会員組織強化委員会委員長と、菊地雅子女性ネットワーク委員会委員長にお話しいただきました。

休憩を挟み、「チームディスカッション Part Ⅰ」では、地区戦略3ヶ年計画の大枠を地区戦略計画委員長の清章司パストガバナーにご説明いただき、続いて、地区研修委員会副委員長の本田博己ガバナーに、映像を交えた詳細な解説の後、ディスカッションを進行いただきました。また、「チームディスカッション Part Ⅱ」では、地区研修委員会の伊能富雄委員より、奉仕プロジェクトについてのご説明と、ディスカッションを進行いただきました。

この後に、竹内正幸ガバナーエレクトより、「会長エレクト・次年度幹事研修セミナー」の開催説明が行われ、最後に研修のまとめとして、曽我隆一地区研修委員会委員長より、「とても良い研修が出来ました。これでいよいよ竹内正幸ガバナー年度のチームがスタートします。全員一丸となって頑張りましょう。」との総評をいただき、無事、セミナーが終了いたしました。

竹内年度行事開催報告

「会長エレクト・次年度幹事研修セミナー」開催

地区副幹事　橋本　徹

開催日：2014年3月15日（土）・16日（日）
場　所：伊香保温泉　福一
出席者：2014－15年度　地区役員　各クラブ会長エレクト、次年度幹事

去る3月15日（土）、16日（日）「2014－2015年会長エレクト・次年度幹事研修セミナー」を開催いたしました。

初日の午前中は、竹内正幸ガバナーエレクトより国際協議会で発表された2014－15年度の国際ロータリーの年次テーマ「Light Up Rotary」について、ゲイリー C.K. ホァン RI 会長エレクトの想いやその説明がされました。加えて、竹内ガバナーエレクトの年度への熱い思いが伝わってくる地区スローガン『異体同心』友情と奉仕の心　築き上げよう『46 のロータリー物語』について説明がありました。

セミナーでは続けて、地区目標、地区組織、年間スケジュール、地区予算等について説明し、続いて井上芙美子2013－14年度ロータリー公共イメージコーディネーターより「公共イメージ」についてお話があり、午前の部を終えました。

午後は、最初に横山公一 2014 － 15 年度ロータリーコーディネーターから「ザ・ロータリー」と題してお話を戴き、続いて地区委員会委員長より各委員会の方針が示されました。その後、今回の目玉となるセッションを行いました。セッションは、初の試みとして各クラブを会員数ごとに4グループに分け、①地区戦略計画、②会員増強、③ロータリー財団、④奉仕プロジェクトの4テーマについてセッションチームを作り、各グループで二日間にわたり行われました。（各セッションの報告は後述）

最後に各分区ごとに分かれ、ガバナー補佐の皆様にリーダーとなって頂き、各クラブの次年度の課題や問題、目標設定等について意見交換が行われました。

また、初日の夜は本セミナーの最大の目的の一つである同期会長エレクト・次年度幹事の皆様がクラブ・分区を超え交流を図り、これからの1年間を共に励まし合い努力し合える仲間を作って頂くための懇親会も盛大に行われました。

最後に、竹内ガバナーエレクトの御礼の言葉をもって本セミナーは終了致しました。

【セッション　地区戦略計画】

リ　ー　ダ　ー　：　清章司地区戦略計画委員長
サブリーダー　：　本田博己地区戦略計画副委員長
アドバイザー　：　曽我隆一地区研修リーダー
記　　録　：　関口　知、岡田　敏郎

会員増強

何より、元気な企業人の集まりであることを伝え、楽しく活動ができる団体であることを前面に押し出し、勧誘すべきである。勧誘時、自然にマイナス面を強調しているのではないか。多くの会員は、ロータリーの例会、事業や活動そのもので得る感動は少ないかもしれないが、むしろ素敵な多くのメンバーと、多くの時間を共有する体験を通じ、関わり会うことで一体感や充実感が得られ、感動体験となるのではないか、そういった本質も伝えるべきではないか。

青年会議所・商工会議所青年部に卒業後入会しているローターアクトメンバーも多く、もっとも身近にいるはずの若い方々へのアポローチをしていないのでは。会費が高いということで入会を断られるという理由が多いが、金銭に替えられない価値があることを、自信を持って伝えきるかが肝要なのではないか。

退会防止

若い会員の退会防止に目が行きがちであるが、高齢・年配・会長経験者（経験豊かな方々）の会員にこそ、体に負担にはならない形で、活動の中心になっていただく機会を増やすべき（セミナーの講師、参加としてでもでも良いのでは）。どこか、『いちあがり的』になってしまうか、『そうさせている』クラブがあるのでは。経験豊富な方々こそ、クラブの中心であるべきであり、若いメンバーと積極的に交流する機会を増やすべきである。

女性会員の勧誘

女性会員の獲得の下地造りとして、ロータリーの縛りの無い企画や集まりを持ち、メンバーとは徐々に交流していくことが効果的なのではないか（コーラスサークル：舞台や映画、ミュージカルを見に行くなど）

広報活動

会議や懇親会等が多すぎるのは時代に反する、もっと汗を流した奉仕活動にこそ重点をおくべきである。その活動こそを広報し、地域の方々の理解を深めるべきである。世界的な団体であるとか、高い理念があるなどというのは、地域の特に一般の方々には受け入れられず、イメージが、どこか裕福な経営者が趣味的に集まっているだけの団体と思われてしまうこともあるのでは。

事　　業

入会間もない比較的若い会員は、積極的に他のクラブにメイクし出向く経験を増やすべき。自身の所属のクラブとの比較が、良くも悪くもでき、クラブの活動に生かしてもらえる。

マンネリ化している事業の見直しと、継続していくべき事業の仕分けが必要。

各クラブ会員数の差等に関して

会員数が少ないところほど、ロータリーの活動に誇りが持てるはず。少ないメンバーと少ない予算で運営しなければならないということは、創意工夫も必要であるため。

スポンサークラブに気を使わなければならない原状が、様々な障害を作っている。

被災地（福島）支援

単に金銭的な援助よりも、こころに響く奉仕活動を行うべき。被災地の方々に耳を傾けることと、もっと寄り添って行う事業を継続的に行うべき。

【セッション　会員増強】

リ　ー　ダー　：　安藤震太郎会員組織強化委員長
サブリーダー　：　生方彰ガバナーノミニー
　　菊地雅子女性ネットワーク委員長
アドバイザー　：　福田一良会員組織強化副委員長
　　疋田博之女性ネットワークアドバイザー
記　　録　：　地区幹事　柳田秀男

竹内ガバナーエレクトは今回のセッションにあたり、まず会員数が近いクラブ毎に4グループの編成を行いました。

グループ内はほぼ同規模のクラブでまとめられた為、悩み事の共感が得られ、また微妙なライバル関係も生まれるという、緊張感のある有意義なセッションになりました。

講師陣は、安藤震太郎パストガバナーをリーダーに、生方彰ガバナーノミニー、菊地雅子女性ネットワーク委員長をサブリーダーに、福田一良パストガバナー、疋田博之直前ガバナーをアドバイザーにと地区の役員で構成されていました。

安藤パストガバナーが挨拶で引用されたのは、ロン・バートンRI会長の講話内容でした。

ロン・バートン氏がロータリーに入会した理由は、友人に誘われたからです。入会してすぐ、奉仕活動のプロジェクトチームに参加した事が氏のロータリーアン意識を目覚めさせるきっかけになりました。氏が皆さんに訴えたかったのは、まずたくさんの友人をロータリーに誘いましょう、そして、ロータリアンとして活動する楽しさを味わってもらいたいということだと思います。

「楽しさは継続の源です。」会員増強はどのクラブでも必須ですが、特に今回は女性会員の増強に焦点をあてました。クラブの歴史の新旧や会員数の多少に関わらず、この点に於いては意識の違いが感じられました。

女性会員0名というクラブもあり、菊地委員長も女性アレルギーの根強さを嘆いておられました。

会員拡大の方法についても、プロジェクトチームを作る、入会対象者のリストを作成する、例会への招待や、体験入会の機会を設ける等々、一通り行き渡った感のある内容に生方ガバナーノミニーも、抜本的な改革の必要性があると提言されました。

いずれにしても、根気よく誘い続ける、幅広く声掛けをするなど、諦めない姿勢が大切である、という結論を得ました。

今後も我々を悩ませ続けるテーマですが、各クラブの会員拡大に寄せる熱意と努力を肌で感じられたことが最大の収穫といえるこの度のセッションでした。

【セッション　ロータリー財団】

リ　ー　ダー　：　牛久保哲男ロータリー財団委員長
サブリーダー　：　伊能富雄ロータリー財団副委員長
　　北野浩司郎資金推進等委員長、
　　森田高史補助金委員長
記　　録　：　地区幹事　橋本徹　落合重男

公明性　公平性を活動の基本とするロータリー財団チームでは、司会の伊能財団副委員長により厳粛かつ厳格に会議が進められました。粛々と進行されるかなか、各クラブの会長エレクト　次年度幹事の皆様より貴重な意見と多くの質問が発表され、どのサークルにおいても活発な意見が交換されていました。

牛久保財団委員長の RI 財団に関わる情報や未来の夢計画についての詳しい説明、森田補助金委員長による補助金申請の質疑に対する理路整然とした精緻な回答、また、北野資金推進委員長のウイットに富んだベネファクターへのおすすめ、45分間が有意義にあっという間に過ぎました。各クラブのサークル参加の皆様には、大変お疲れ様でした。

これを機会に、ロータリー財団ハンドブックを活用され、寄付金申請がさらに活発になればと思っております。

【セッションチーム　奉仕プロジェクト】

リ　ー　ダ　ー　：　松倉紘洋　青少年奉仕連絡会議議長
サブリーダー　：　板垣忍　地区幹事、春山和夫地区幹事
　　前原信之青少年交換委員長
　　天野純一 IA 委員長、宇井正典 RA 委員長
　　浜辺宣明 RYLA 委員長

アドバイザー：　山崎學 パストガバナー
記　　録：　市川博士・岩井健一郎

松倉リーダー：青少年奉仕がやがてロータリーの発展へとつながる。未来を担う青少年に目を向けよう。今我々ロータリーは彼らに何をなすべきか。

前原青少年交換委員長：公立高校のカリキュラムは厳格に管理されているが比較的柔軟な私立学校が中心となってしまう為、クラブが偏ってしまいがちです。また送り出したところが受入もしなければならない為クラブ単独でなく分区さらには近隣分区との合同受け入れ態勢を考慮して欲しい。派遣学生ですが日本側は大変優秀で一年交換学生のOB・OG（ローテックス）は各分野で活躍していますしロータリークラブの活動にも積極的に参加協力しております。

宇井ローターアクト委員長：最近両者の交流の成果としてインターアクト卒業後にローターアクトに入会するケースが見受けられるようになってきた。しかしながら30歳卒業後にロータリアンにとステップアップする事が日本では難しい。全体としてロータリアンの減少とともにローターアクターの数も減少している。理由として昔はロータリーの会員子弟が多かったが平均年齢も上昇し対象者が少なくなったことと、企業社員会員も経済情勢上出せなくなったことが考えられます。今後は複数クラブで支え予算配分も多くしていただく事で彼らがのびのび積極的に活動できる場を提供できればと思います。尚、女性会員の入会は会員拡大に効果があるそうです。

浜辺ＲＹＬＡ委員長：2840地区のRYLAは全国的にみてもレベルが高いとのこと。米山奨学生やロータリー会員の社員も参加しており成果が見えると評判です。しかし人数集めにこだわりロータリアンを無理やり押し込めると悪しき見本となる事もあるのであくまでも内容を重視して欲しいとの事でした。昨年の“水”に続き今年は“ゴミと環境”をテーマに行います。

山崎パストガバナー・総評：青少年交換は大変な事業。日本からの学生選考は高レベルだが、日本の人気がさほど無いせいか受入れる学生のレベルは、バラつきが見られる。ローターアクトはプレロータリアン、日本ではお金と時間の問題があり会員拡大が難しい。婚活の場等のアピールも良いのでは。

松倉リーダー：各グループはその規模によってグループ分けされているせいか奉仕プロジェクトの課題については共通に関心を示したところと逆の場合があった。未来のロータリアンの為にもっともっと関心を持ってほしい。

IM (Intercity Meeting) 報告

第6分区 元気なクラブを目指す

第6分区ガバナー補佐　荻野　勝美（富岡 RC）

平成 26 年 2 月 14 日から 15 日にかけて観測史上最高の降雪量を記録し、まだその影響も残る中、2 月 22 日（土）ホテルアミューズ富岡にて第6分区インターシティーミーティングが、本田ガバナー、清、松倉両パストガバナー、板垣地区幹事そして第6分区担当小林地区副幹事をご来賓としてお迎えし、更に 第6分区各クラブより 140 名もの仲間に参加を頂き開催されました。

本年度、本田ガバナーは「IM を開催し私たちの課題と希望を確認しよう」という地区目標を掲げられました。今回これに基づいての開催になった訳であります。言うまでもなく、IM は複数の都市のクラブで実施する自由討論集会であり、その目的は会員相互の親睦と面識を広め、会員にロータリー情報を伝えることにあります。

今回の IM は、そのテーマを「RLI ってなんだろう？」と設定いたしました。RLI ＝ロータリー・リーダーシップ研究会は 1992 年に設立され、RI から認証されたロータリークラブの指導者開発を目的としたプログラムです。日本でも 2008 年から開催が始まり、当 2840 地区でも 3 年前からこのプログラムが導入されました。RLI が設立された背景は、将来のクラブ指導者が、十分な知識を持ち、効果的なクラブ作り、各種プログラムを推進させるために十分な指導力を発揮できるよう、一般的な会員を対象に指導者育成の機会提供を目的としています。

IM 開会セレモニーに続いて、参加した全ての会員の前で「公開形式の RLI セミナー」を 2 セッション（50 分×2時限）開催致しました。セッション 1 は、入会 3 年以内の会員又は女性会員を各クラブより 1 名推薦していただきパネラーになっていただき、ディスカッションリーダーは富岡かぶら RC の山田利和さんに担当して頂きました。セッション 2 は各クラブの会長エレクトがパネラーに、ディスカッションリーダーは藤岡南 RC の豊川一男さんに担当して頂きました。両セッション共「クラブを元気にしよう」をテーマに討論していただきました。今回このような公開 RLI セミナーを開催した狙いは、まず第一に RLI ってなんだろうということを皆さんに体験して頂くことにありました。第二に「クラブを元気にしよう」を新しい会員の視点と会長エレクトという次年度クラブ指導者の視点の双方の議論を聴いていただき、IM に参加の全ての会員が、本年度本田ガバナーの地区目標の第一に掲げた「クラブを元気にしよう」ということについて考えていただくきっかけにしてほしかったのです。

実際の RLI セミナーでは、ディスカッションリーダーの巧みな進行と相まってパネラーとなった会員も積極的にディスカッションに参加して頂きました。「クラブを元気にしよう」ということについて大いに議論をたたかわせることができました。このセミナーに参加した全ての会員も貴重な時間を共有することができて、今後の各クラブの活性化や会員増強にも繋がっていく契機になったことと確信をしています。RLI セミナー後、本田ガバナーより示唆に富んだご講評を頂き本会議は終了いたしました。

第2部の懇親会は 130 名の参加者のもと、着座形式で行われました。懇親会は大いに盛り上がり、第6分区の更なる結束の強化と IM の目的でもある会員相互の親睦と面識を広めることが出来ました。「手に手つないで」を大合唱して懇親会は終了しました。

IM の開催に当たり、実行委員をお努めいただいた各ロータリークラブ会長の皆様方、そして大会のホストクラブとしてご支援とご協力を頂きました富岡ロータリークラブの皆様方に感謝を申し上げ、第6分区 IM の報告と致します。

IM (Intercity Meeting) 報告

熱い思いの第4分区

第 4 分区 A ガバナー補佐 五十嵐敏明（太田西 RC）
第 4 分区 B ガバナー補佐 大越　正禎（館林西 RC）

第 4 分区の IM は＜我がロータリーモメント Part Ⅱ＞をメインテーマとして、2014年3月9日（日）太田市グリーンパレスにて120名のロータリアンの参加を得て行われました。本田ガバナー、高木パストガバナーのご挨拶を頂いたあと、第4分区10クラブの会長紹介と各クラブの会員増強の現状についての報告が行われました。増強を達成されたクラブ、また会員拡大に奮闘されているクラブの取組みなど10クラブの会長さんからの報告を聞くことが出来ました。発表された10クラブの会長さんです。

太　田　R　C	田部井敏弘	館　林　R　C	小池　敏郎
太 田 西 R C	長坂　正信	大　泉　R　C	八里　隆司
太 田 南 R C	清水　親男	館 林 西 R C	土屋　孝夫
新　田　R　C	大谷　教夫	館 林 東 R C	鑓田貴一郎
太 田 中 央 R C	武井　智明	館林ミレニアム RC	原　　精一

休憩の後、メインテーマである＜我がロータリーモメント＞の発表が行われました。今回は、各クラブのロータリー活動に精進されたシニアアクティブなロータリアンの方々に、ロータリーに纏わることをメインテーマに人生を語って頂こうと、各クラブより代表1名の方に発表をお願いしました。

太田 RC　中野　正美会員：ロータリーの奉仕活動とふれあいについての今までの活動と関わりを、パワーポイントによる映像を交え解りやすく発表していただきました。

館林 RC　新井　保会員：ロータリー国際大会の思い出を語られ、大会参加の感動は一生忘れられない思い出である、と国際大会への参加を勧められました。

大泉 RC　青木　光義会員：ロータリーで知り合った多くの仲間との交流の思いについて話されました。大泉 RC 50周年を多くの仲間と元気に迎えたいと締めくくりました。

太田西 RC　大塚　祐康会員：人生は感動と共感、ロータリーの価値を高めよう！

太田南 RC　久保田　文彦会員：ロータリー歴33年、メンバーに感謝しながらこれからも健康を維持しロータリーの奉仕に努めたいと話されました。

館林西 RC　中繁　基会員：今までのロータリー活動について話され、自身が会長の時の RI テーマ＜ BE A FRIEND ＞を大切にしこれからもロータリー活動に邁進していくと話されました。

新田 RC　近藤　雅博会員：青少年委員会に長期間携わり、新田暁高校インターアクトクラブ設立とその後の長期に亘る交流についての感動体験を話されました。

館林東 RC　富田　佳典会員：米山大委員長を3年間勤められた経験から、要請が在った時は地区役員を受けてロータリーの経験を積み良さを味わって欲しい。

太田中央 RC　大谷　克己会員：ロータリーの奉仕活動として小学生男女バレーボール大会を始めて現在8回大会を行い、各地より53チーム530名、県内外多くの地域からの参加者が集まるようになりました。

館林ミレニアム RC　川生　宏会員：ロータリアンとしての自身の経験から＜四つのテスト＞を会社の入り口に飾って欲しい。職業奉仕こそロータリーの原点であります。

それぞれの発表者の方々のロータリーへの思いが熱く語られ、大幅な時間超過となりましたが、とても貴重なお話を聞くことが出来、有意義な時間を過ごすことが出来たと思っております。高木パストガバナーに講評を頂き第1部は終了いたしました。第2部の懇親会は遅れての開催となりました。ガバナーエレクト竹内正幸様の挨拶と、次年度地区大会実行委員長間下様（太田 RC）より次年度地区大会のご案内がありました。アトラクションとして＜みやびの会＞による～しの笛と琴の調べ～と題し格調高い演奏が行われました。会員の皆様も大いに親睦を深められたとおもいます。

最後に「手に手つないで」を歌い終了しました。

久しぶりの IM 開催でしたが、本田ガバナー、竹内ガバナーエレクト、高木パストガバナーをはじめご来賓の皆様、参加クラブの皆様、そして本大会をおおいに盛り上げてくださいました＜我がロータリーモメント＞を発表された10名の皆様に心より厚く感謝申し上げます。そしてこの IM のホストクラブの太田西 RC、館林西 RC と事務局皆様、特に太田西の皆様には例会場と IM 会場が同じであるため、より多くのお手数をお掛けいたしました、本当にご苦労様でした厚く感謝申し上げます。有り難うございました。

報告者　大越　正禎（館林西 RC）

周年記念式典報告

前橋中央ロータリークラブ　創立20周年記念

前橋中央ロータリークラブ　会長　萩原　　渉
創立 20 周年実行委員会委員長　井上芙美子

前橋中央 RC では3月1日に創立20周年の記念式典を前橋商工会議所会館にて開催いたしました。

当日は、本田博己ガバナーを初め、友好クラブ、県内各クラブの会長・幹事様など 200 名を超えるご出席をいただき大変盛況なうちに式典が開始されました。

創立 20 周年の記念事業として、台湾の潭子 RC との姉妹クラブ提携と、東日本大震災復興支援活動としての福島県内の小学生を対象にした「少年野球教室」（昨年 11 月 24 日に開催）の2つの事業を発表しました。

台湾の潭子 RC との姉妹クラブとの調印式では、台湾からはるばる 34 名ものロータリアンおよび夫人がお見えになり姉妹クラブの調印式が式典の中で無事終了しました。

そして東日本支援活動の野球教室は、福島市あづま球場において、群馬ダイヤモンドペガサスの川尻監督のもと選手 8 人で実施し、福島市内8RC の協力を得て 200 名もの子供たちが参加したこと。終了後、子供たちに当クラブの会員が焼きまんじゅうや焼きそばを振る舞ったこと。ぐんまちゃんのぬいぐるみをプレゼントし大変喜ばれたことなどを報告しました。

最後に本田ガバナー、大澤正明知事、曽我前橋商工会議所会頭、スポンサークラブの町田前橋東 RC 会長よりご祝辞を賜り記念式典が無事終了しました。

記念祝賀パーティーでは、オープニングに当たり二期会会員である田中誠氏のテノール独唱と井上好美氏によるピアノ演奏で優雅に幕開けいたしました。

山本前橋市長、水口富山みらい RC 会長、詹 潭子 RC 会長からのご祝辞を頂いて、乾杯の挨拶を皮切りにロータリアンの交流が始まりました。

当日は、ご多忙中にもかかわらずご参加頂いた本田博己ガバナーをはじめ数多くのご来賓の皆様、会場を盛り上げて頂いた友好クラブ・姉妹クラブ・参加クラブの皆々様、前橋中央 RC の 20 周年記念式典に足を運んでいただき誠にありがとうございました。

周年記念式典報告

富岡中央ロータリークラブ創立 20 周年記念

富岡中央ロータリークラブ　会長　佐藤　真一

2月の歴史的大雪から3週間、日陰にはまだ雪の残る3月８日（土）、富岡中央ロータリークラブは、ホテルアミューズ富岡において創立20周年記念式典を開催いたしました。当日は、岡野光利富岡市長様、第 2840 地区本田博己ガバナーをはじめとするご来賓の皆様、県内29クラブ210名のロータリアンの皆様、そして東日本大震災の復興支援活動を通して交流のある宮城県の多賀城ロータリークラブの方にもご臨席を賜り、盛大に式典を挙行することができました。

式典は、富岡市吹奏楽団の金管五重奏団カブラリアンブラスのオープニング演奏により始められました。ご来賓の方々、来訪いただいたクラブのご紹介、歓迎のご挨拶に続きまして、下記の記念事業を、パワーポイントにより写真をご覧いただきながら紹介致しました。

1. 富岡製糸場のユネスコ世界遺産登録への活動支援として、ジャンプ傘 300 本の贈呈。
2. フィリピン「サーキットマカティロータリークラブ」との友好ロータリークラブ締結。
3. フィリピンの台風被害への支援金として 10 万円を贈呈。
4. 富岡市民吹奏楽団への活動支援として、活動資金 10 万円を贈呈。

その後別室にて行われた祝賀会では、想いを込めた富岡製糸場にゆかりのある20周年記念品の説明をさせて頂きました。会場内では友情の輪が広がり、地元下丹生獅子舞保存会によるアトラクションもお祝いの席を盛り上げて下さいました。多くの方が最後まで楽しく有意義な時を過ごされたご様子が見受けられ、大変嬉しく思いました。最後の「手に手つないで」を皆様と歌う時には、大人数の為なかなか輪が進まないという嬉しいハプニングもありました。

私共クラブは、1993 年 8 月に、富岡ロータリークラブのスポンサーにより 44 名の会員でスタートを切りました。創立時のキャッチフレーズは「今、まゆの里に新しい風を！ーものから心への変革が始まる」でありました。折しも富岡製糸場が本年、世界遺産の産業遺産としての登録の可否が決定されようとしています。富岡のこれからの一層の発展を期待し、私共クラブが少しでも寄与できるよう願って居ります。この 20 年の節目に、地域に奉仕するロータリー精神を再認識し、会員同志意欲を高め、力

を合わせて「さらなる夢を追いかる」奉仕活動に取り組んで参る所存です。

最後に貴重なお言葉を頂いたご来賓各位、祝い励まして下さいましたご参会の皆様に、深甚なる感謝をささげ、ご報告と致します。

私達の富岡製糸場への想いを込めた記念品

パストガバナー エッセイ

少子超高齢化時代を迎えて！

パストガバナー　松倉　紘洋
（2008 ー 09 年度ガバナー）

私が、R.C に入会したのが昭和 58 年でした。入会に際して、職業分類はどうしますか？と聞かれました。本業的には住職ということでしたが、一方で老人ホームの施設長でもありました。

当時 R.C の職業分類では“養老院”という分類で、一般的には何の疑問も持たれていませんでしたが、当時老人福祉の世界では、イメージが良くないということで“老人ホーム”に名称を変えていた頃でした。そこで私は敢えて“仏教”ではなく“養老院”という職業分類で入会させていただき、その後折に触れて先輩の方に“老人ホーム”に変更してほしいとお願いを致しました。

私が申し出たことだけではないと思いますが、数年後その分類が、正式に変わったことは小さな喜びでもありました。

さて、少子高齢化社会がいよいよ顕著になってまいりました。厚生労働省では、各種の審議会で議論を重ね、2015 年度から始まる第 6 期介護保険事業計画以降の計画を、2025 年（団塊の世代が 75 歳以上となる）を見据えた高齢者対策を進めていますが、介護現場で働く人材の確保をはじめ、検討を要する問題が山積しています。

日本の総人口は 1 億 2800 万人（平成 22 年 10 月）65 歳以上の人口は 2900 万人で、総人口の 23.1%、つまり 4 人に 1 人が高齢者となる社会です。団塊の世代が 65 歳以上となる平成 27 年（2015 年）には、高齢者人口は 3000 万人を超え、実に現役世代 2 、3 人で 1 人の高齢者を支えるという世界的に例を見ない状況となり、世界各国が、わけても中国、韓国をはじめとするアジア新興国も日本の動向に注視しています。

現今、私たちの身近な高齢者を取り巻く環境は、老人ホームや老健施設の他にグループホーム、小規模多機能型の施設、サービス付高齢者向住宅、有料老人ホーム等々、各種の施設が、無秩序とも思える程乱立の状態となってきました。介護サービスを謳いながら『福祉の心』を持たない経営者や介護職員の施設にならないよう、職業奉仕、職業倫理観が問われているのです。

そして、この少子高齢の時代は、日本全体の問題でもあり、ロータリークラブも大きな問題として捉え、そして考えねばならないと思います。

ガバナー・コラム　ロータリーの誤解・正解　シリーズ〈第 10 回〉

第 10 回　奉仕は他者のため？ 自分のため？
―究極の利他主義としての「奉仕の理念」―

ガバナー　本田　博己

私たちロータリアンは、なぜロータリークラブにいそいそと集うのでしょうか。多忙な職業人である私たちは、なぜ自分の時間を割いてまで、熱心に奉仕の実践に取り組むのでしょうか。経済合理性を追求すべき組織のリーダーである私たちは、なぜ自己の利益より他者への奉仕を優先する「奉仕の理念」という「理想」を信奉し実践するのでしょうか。

昔から一般の人々のロータリーやロータリアンに対するイメージは変わっていないようです。1919 年、ロータリーの創始者ポール・ハリスに取材した新聞記者が記事でこう書いています。「彼（ポール・ハリス）が組織したのは奇妙な団体で、会員はその団体から何も得ないどころか、善を行うという特権を手にするために会費を払うのである」（“Huston Chronicle” 1919）

社会に何か良いことをしようとしている奇特な人々のようだが、よく理解できない団体だ、という認識です。こうしたロータリーに対する世間の見方は、残念ながら現代に至ってもそれほど変わっていません。

それどころか、ロータリアンの中にも、「奉仕の理念」は素晴らしい理念だが非現実的な「理想」にすぎないとか、「四つのテスト」どおりにやっていたら仕事にならない（実際の仕事にそのままでは適用できない厳格すぎる規則だ）、などと主張する人がいます。果たしてロータリーの「奉仕の理念」や「四つのテスト」はお題目だけの理想論にすぎないのでしょうか？

本連載の第7回（1月号）で、ロータリー理念やロータリー運動の本質・価値は、二元論的な思考では捉えられない、と申しました。また、振り返ってみますと、第2回（8月号）で「奉仕の理念」を論じたときには、「『奉仕の理念』は、決して利益を求めて奉仕するという功利主義的な思想ではなく、他者のために尽くすことが自らの幸せ（喜び）であるという、他者に奉仕すること自体を目的とする利他主義の思想です。究極の『奉仕の理念』とは、利己と利他の矛盾などない、利己と利他が完全に一致する状態だといえるでしょう。」と早くも口走っています。思えばこのことを私なりに「論証」し、皆様にも得心していただくために、これまで紙数を費やしてきたような気がします。

「トレードオフ」（trade off）という言葉を第7回（1月号）でご紹介しました。一般に「同時には成立しない二律背反の関係」（『広辞苑』岩波書店）という意味ですが、「サービス（奉仕）」と「利益」や「利己」と「利他」とがトレードオフの関係にあるという考えにとどまっている限り、ロータリーの「奉仕の理念」は理解できません。

利己と利他をめぐる議論は古今東西尽きません。日本では、最澄さんの言葉と言われている「忘

己利他」や「自利とは利他をいう」など、仏教の教えの中に、人間の利他的行動に関する深い洞察を見ることができます。近年、「実験社会心理学」「人間行動進化学」「進化倫理学」など学問の分野でも、なぜ人は時に自分を犠牲にしてまで利他的行動をとるのか、という問いに応えようとする試みがあります。

進化倫理学の立場から、利他的行動は、結局人間が本来持っている「利己性」に起因すると主張する学者もいます。「個々の生物は、自分が生存・繁殖する上で利益になる性質を進化させており、『利己性』は、生物一般の基本的性質である。」「他者への利他行動は、将来、周囲の不特定の人たちから『見返り』を得るための『投資』」であり、「道徳や正義は、利益に向けて生き、利益のために社会生活をする人間という生物にとって、その利益を得るために必然的に尊重すべき『生の指針』なのである。」というのです。(『進化倫理学入門―「利己的」なのが結局、正しい』内藤淳　光文社新書)「情けは人のためならず」というわけです。

一方、最近の脳研究で「私たちには、他者に対して親切にふるまうという、そのこと自体を報酬（快）と感じる仕組みがある」という報告もあるそうです。(『利他学』小田亮　新潮社)

アメリカの心理学者のアブラハム .H. マスロー(1908 － 1970)が 1950 年代に提唱した「欲求5段階説」(本人は有名な 5 段階のピラミッド図は示していない。5段階説は実証性に欠けるという批判もある）の最高段階が「自己実現」です。個人主義的な概念と誤解されやすい「自己実現」について、マスローはこう言っています。

「自己実現の水準では、多くの二分法は解決され、対立概念は結合される」。「自己実現する人は、利己主義と無私の態度とが、一層高次の上位単一体のうちに融合する傾向が強い」。「自己実現をする人は、愛他的、献身的で、自己超越的、社会的である」。「人間の成熟の高い水準にあっては、多くの二分法、両極性、葛藤は融合し、超越し、解決される。自己実現する人間は、利己的であると同時に、利己的でない」。(『完全なる人間』上田吉一訳　誠信書房)

マスローは、自分の枠を越えた目的、対象に向かうこと、己と他人の「二項対立」がないことが、究極の到達すべき人間のあり方であると言っているのです。

さて、ロータリーの「奉仕の理念」の意義は、“Service Above Self”と“He Profits Most Who Serves Best”という二つのモットーを一体化して捉えることによって了解されると申しました（第2回、8月号)。アーサー・F・シェルドンの『ロータリーの哲学』(1921）でも、「決議23－34」(1923）でも、この二つのモットーが一体の形で、ロータリー哲学である「奉仕の理念」が示されています。

2010 年規定審議会では、「『社会奉仕に関する 1923 年の声明』の第一項を、奉仕の哲学の定義として使用することを検討するよう RI 理事会に要請する件」(決議案 10-182　釧路北 RC 提案）が 444 対 66 の圧倒的多数で採択されました。第 1 項には次のようにあります。

「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う

他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕ー“超我の奉仕”の哲学であり、これは“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”という実践的な倫理原則に基づいている。」

この時代（1920 年代）のロータリアンの認識では、まだ利己と利他は対立・矛盾・葛藤の関係にあったのかも知れません。利己と利他の矛盾を和らげ、バランスをとる人生哲学が「奉仕の理念」であったのかも知れません。シェルドンが“Service”と“Profit”の関係を、「原因と結果の科学」として、ことさらに「科学」を強調したのは、“Service”と“Profit”とが、トレードオフの関係にあると思われていた時代の風潮に対する「防衛反応」だったのかも知れません。シェルドンの墓碑銘には「ビジネス・サイエンティスト」という肩書が刻まれています。

科学は、現代においても人間の利他行動の理由を合理的・科学的に説明したり、解釈したりすることはできますが、それで「利他」をすっかり認識できたとは言えません。認識するとは、自らの内にその本質的意味を体感し得心するということです。マスローの「自己実現的人間は自己超越に達する」と言う言説も、心理学者としての科学的見解というより、曰く言い難いマスローの哲学的直観に基づくものだと思われます。

ロータリーの「奉仕の理念」が、利己と利他の矛盾・葛藤を和らげる人生哲学から、利己と利他が完全に融合された究極の利他主義にまで達することができたのはなぜでしょうか。

ロータリーは決して宗教ではありませんが、参加すること、行動すること、実践することで、ある種の「啓示」や「悟り」の瞬間が訪れることがあります。田中作次 RI 直前会長が提示した「ロータリーモメント」（ロータリーの感動体験）もそういう瞬間を表現したものと言えるでしょう。

ロータリー 100 年の歴史の中で、奉仕する喜びを体感した数多のロータリアンがいます。彼らの味わった奉仕することで得られた充実感、自己成長感、自己実現感が、「奉仕の理念」の意味を磨き深めていったのです。数多のロータリアンによる奉仕の実践の積み重ねによって、「奉仕の理念」という人生哲学は、他者のために尽くすことが即、自らの幸せ（喜び）になるという究極の利他主義にまで成長していったといえるのではないでしょうか。

ロータリーに積極的に参加し、熱心に実践するロータリアンにとって、義務と遊び、利己心と利他心、野心と無私無欲とは融合して一つのものになります。奉仕は他者のためでもあり、自分のためでもあるのは自明なことなのです。

2013-2014 年度　地区主要行事一覧　（下期）

2014年	1月　6日（月）	16:00 第3回ガバナー諮問委員会　18:00 GE壮行会	ラ・フォンテーヌ
	1月18日（土）	10:00　第1回地区補助金審査会	伊勢崎プリオパレス
	1月26日（日）	米山記念奨学生選考会	前橋問屋センター会館
	2月　2日（日）	第4回ガバナー諮問委員会(GE報告)・規定審議会補欠議員選出	前橋問屋センター会館
	2月15日（土）	米山奨学生終了式・奨学生歓送会	前橋商工会議所
	2月23日（日）	新会員セミナー（RLI方式　1日コース）	前橋問屋センター会館
	3月20日（木）～23日（日）	インターアクト国際交流事業	台湾
	3月29日（土）	第2回地区補助金審査会	伊勢崎プリオパレス
	4月26日（土）	10:30　地区補助金最終審査会	前橋問屋センター会館
	4月25日（金 ）～26日（土）	インターアクト国際交流事業（受け入れ）	高崎商科大学
	4月27日（日）	新規米山奨学生カウンンセラーセミナー	前橋問屋センター会館
	4月27日（日）	新規米山奨学生ｶｳﾝｾﾗｰ・米山奨学生オリエンテーション	前橋問屋センター会館
	5月25日（日）	16:00　第5回ガバナー諮問委員会	群馬県庁
	5月25日（日）	18:00　現新地区役員連絡会議	群馬県庁
	6月1日（日）～4日（水）	国際大会	シドニー
	6月15日（日）	米山記念奨学生学友会総会	前橋商工会議所
	8月	会計監査報告	

2014-2015 年度　地区主要行事一覧　（年度前・上期）

2014年	1月12日（日）～18日（土）	国際協議会（竹内ガバナーエレクト出席）	サンディエゴ
	3月　2日（日）	地区チーム研修セミナー	太田　ティアラグリーンパレス
	3月15日（土）～16日（日）	会長ｴﾚｸﾄ・次年度幹事セミナー（PETS・SETS）	伊香保　福一
	4月　6日（日）	第2回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館
	4月19日（土）	地区研修・協議会（旧：地区協議会）	太田　ティアラグリーンパレス
	5月24日（土）	am：第2回ガバナー補佐会議　pm：会員増強セミナー	前橋問屋センター会館

2013-2014 年度　IM 開催一覧

分　　区	開　　催　　日	開　　催　　場　　所
第１分区	2014年5月18日（日）	前橋商工会議所
第２分区ー A	2014年3月22日（土）	桐生プリオパレス
第２分区ー B	2014年3月23日（日）	ニューいづみ
第３分区	2014年5月11日（日）	高崎ビューホテル
第４分区ー A	2014年3月　9日（日）	太田グリーンパレス
第４分区ー B		
第５分区	2014年2月　9日（日）	アネーリ渋川
第６分区	2014年2月22日（土）	ホテルアミューズ富岡

2013-2014 年度 周年行事予定クラブ

クラブ名	周年	予　定　日	開　催　場　所
前橋中央	20	2014年3月　1日（土）	前橋商工会議所
富岡中央	20	2014年3月　8日（土）	ホテルアミューズ富岡
高崎	60	2014年3月 24日（月）	高崎ビューホテル
高崎ｾﾝﾄﾗﾙ	15	2014年4月　4日（金）	高崎ビューホテル
伊勢崎	60	2014年4月　5日（土）	伊勢崎プリオパレス
前橋	60	2014年4月 12日（土）	前橋商工会議所
館林東	30	2014年4月 20日（日）	レストラン　ジョイハウス
渋川みどり	20	2014年4月 29日（火）	アネーリ渋川
前橋西	50	2014年5月 10日（土）	前橋中央ｲﾍﾞﾝﾄ広場（式典）・前橋ﾃﾙｻ（記念事業）
藤岡	50	2014年5月 17日（土）	藤岡市みかぼみらい館
伊勢崎東	20	2014年6月 13日（金）	伊勢崎プリオパレス

新会員紹介

新会員名　中村有香
クラブ　前橋
入会日　2014年2月25日
職業分類　専門学校
勤務先　㈻群馬英数学舘 育英メディカル専門学校
役職　学校長
推薦者　前田　勇

新会員名　塗師　達雄
クラブ　桐生南
入会日　2014年2月5日
職業分類　証券業
勤務先　みずほ証券㈱桐生支店
役職　支店長
推薦者　大友　昭久

新会員名　星野尚香
クラブ　桐生南
入会日　2014年1月8日
職業分類　設備管工事業
勤務先　星野管工㈱
役職　代表取締役社長
推薦者　山根　明

新会員名　池田　辰彦
クラブ　伊勢崎中央
入会日　2013年10月3日
職業分類　住宅建設
勤務先　㈱ブライト
役職
推薦者　岡村　皓司・小林　正弘

目指せ
レジェンド！！

文庫通信（319 号）

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして 1970 年 に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページで PDF もご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

地区大会記念講演他より

◎「戦国を生き抜いた知恵」 細川護熙　2013　7p（D.2650 地区大会記念誌）
◎「はやぶさプロジェクトの成果・教訓」 川口淳一郎　2013　4p（D.2820 地区大会記録）
◎「日本人の持つべき国家観について」 渡部昇一　2013　11p（D.2520 地区大会記録誌）
◎「世界の人々のために」 緒方貞子　2013　5p（第 11 回日韓親善会議報告書）
◎「これからの両国のきずな」 山東昭子　2013　5p（第 11 回日韓親善会議報告書）
◎「軍艦『筑波』－偉大なる航海（上）（下）」 岡村 健　2013　23p（福岡南 RC 月報）
◎「『がんばらない』けど『あきらめない』」 鎌田 實 〔2013〕1p（D.2840 地区大会報告書）
◎「これからの生き方」 山田法胤　2013　2p　（D.2700 地区大会の記録）
◎「人が動き街が動く～私のリーダーシップ論」 セーラ・マリ・カミングス 〔2013〕21p
（D.2800 地区大会記念誌）
◎「平和と命」 深川純一　2013　20p （第 35 回青少年指導者育成セミナー報告書）
◎「掃除実践 60 年の『人生と経営の哲学』」 鍵山秀三郎　2014　10p
（D.2710 地区大会特集号）

［上記申込先：ロータリー文庫］

ロータリー文庫

〒１０５－００１１東京都港区芝公園２-６-１５黒龍芝公園ビル３階
ＴＥＬ（０３）３４３３-６４５６・ＦＡＸ（０３）３４５９-７５０６
ｈｔｔｐ://ｗｗｗ.ｒｏｔａｒｙ-ｂｕｎｋｏ.ｇｒ.ｊｐ
開館＝午前 10 時～午後５時　休館＝土・日・祝祭日

第2840地区
2月出席報告

クラブ数	会員数					
	年度初	月初	月末	純増減会員数	女性会員	当月出席率
46	1,875	1,922	1,928	6	82	81.97

クラブ名		例会数	出席率(%)	会員数 年度初	月初	月末	増減	女性
第1分区	前橋	2	83.36	111	112	113	1	7
	前橋西	4	82.93	52	53	53	0	3
	前橋東	4	76.49	65	68	68	0	5
	前橋北	4	87.52	64	69	69	0	5
	前橋南	3	97.06	32	34	34	0	0
	前橋中央	4	84.25	33	29	29	0	6
	合計		85.27	357	365	366	1	26
第2分区A	桐生	4	79.66	61	62	62	0	0
	桐生南	3	74.67	23	24	25	1	1
	桐生西	4	91.18	53	51	51	0	1
	桐生中央	4	75.96	24	26	26	0	4
	桐生赤城	3	86.06	42	42	42	0	5
	合計		81.51	203	205	206	1	11
第2分区B	伊勢崎	3	95.03	72	74	74	0	0
	群馬境	4	89.06	29	28	28	0	1
	伊勢崎中央	4	87.30	64	72	74	2	0
	伊勢崎南	2	73.82	21	20	21	1	1
	伊勢崎東	2	82.14	30	28	28	0	1
	合計		85.47	216	222	225	3	3
第3分区	高崎	3	82.83	61	66	65	-1	0
	高崎南	3	76.56	62	62	63	1	4
	高崎北	4	68.28	63	71	72	1	0
	高崎東	3	84.72	37	36	36	0	1
	高崎ｼﾝﾌｫﾆｰ	4	75.00	36	40	40	0	4
	高崎ｾﾝﾄﾗﾙ	3	74.00	34	35	35	0	0
	合計		76.90	293	310	311	1	9

クラブ名		例会数	出席率(%)	会員数 年度初	月初	月末	増減	女性
第4分区A	太田	4	93.11	69	69	69	0	3
	太田西	4	80.69	15	18	18	0	2
	太田南	3	81.55	38	36	36	0	0
	新田	4	81.58	23	19	19	0	0
	太田中央	4	86.36	44	44	44	0	2
	合計		84.66	189	186	186	0	7
第4分区B	館林	4	85.56	44	45	45	0	0
	大泉	3	78.93	25	28	28	0	2
	館林西	3	84.20	20	19	19	0	0
	館林東	4	87.00	25	27	27	0	2
	館林ﾐﾚﾆｱﾑ	4	94.65	25	25	25	0	0
	合計		86.03	139	144	144	0	4
第5分区	渋川	4	94.45	54	54	54	0	4
	沼田	2	81.39	60	61	61	0	1
	草津	4	70.85	16	16	16	0	1
	中之条	2	93.30	23	22	22	0	1
	沼田中央	3	82.05	51	55	55	0	1
	渋川みどり	3	73.95	40	42	42	0	2
	合計		82.67	244	250	250	0	10
第6分区	富岡	3	88.44	48	48	48	0	4
	藤岡	4	83.70	43	46	46	0	2
	安中	2	61.29	28	31	31	0	0
	藤岡北	3	76.76	14	16	16	0	2
	富岡中央	4	83.71	42	40	40	0	1
	碓氷安中	4	71.43	14	14	14	0	2
	藤岡南	4	77.78	17	18	18	0	1
	富岡かぶら	3	70.37	28	27	27	0	0
	合計		76.69	234	240	240	0	12

ガバナー月信についてのお願い

●ガバナー月信の配信は、毎月 1 日です。
また、2840 地区ホームページ http://www.rid2840.jp でも閲覧可能です。

●出席報告の締切りは、**毎月 14 日**です。
出席報告は地区ホームページのトップページより入力してください。
なお、IDとパスワードは各事務所で御承知と思いますが、不明なクラブは本田ガバナー事務所までお問い合わせください。

●原稿の締切りは、**毎月 15 日**です。ワードまたはエクセル書式で作成の上、メール添付し、本田ガバナー事務所 honda@rid2840.jp まで送信してください。
なお、写真等の画像がある場合は、デジタルデータでお送りください。

●新会員情報並びに訃報の締切りは、**毎月 15 日**です。
（15日以降のご連絡分につきましては、次月号の掲載となります。）
新会員につきましては氏名、入会日、職業分類、勤務先、役職、推薦者氏名を記入の上、写真を添えて、メールにて本田ガバナー事務所までお送りください。**なお、訃報につきましてはクラブ会長様に 250 字以内で追悼文を作成いただき、メール添付をお願いします。**

※この月信のＰＤＦデータを印刷して、各クラブの第一例会で会員の皆様に回覧いただきたくと共に会長の時間の中で要点を会員へお伝えいただければ幸いです。

編集後記

今年も早いもので桜満開の 4 月を迎え、本田年度も残り 3 か月となりました。
ゴール間近、ラストスパートです。有終の美が飾れるように全会員で頑張りましょう！
さて、「ガバナー月信」4 月号いかがだったでしょうか？
今月号は IM、周年行事、PETS など本田年度、竹内年度の行事報告が盛りだくさんです。
パストガバナーエッセイでは松倉パストガバナーにご寄稿いただきました。
久しぶりに実施しています IM は各地で大変盛り上がっているようです。また、竹内年度は PETS が終了し、本格的に始動しました。
次号もお楽しみに！

2013-14 年度ガバナー月信編集長　温井　尚久（前橋RC）